

平成 28 年 度

事 業 実 績 報 告 書

社 会 福 祉 法 人 新 栄 会

## 1. 総括

自立プラザ希織では、新たな事業種目として農業に取り組み、ジャガイモ、玉ねぎ、ラン等を栽培し、販売も行うなど次年度に向けた試行的な活動を展開しつつ、利用者の活動しやすい環境（水道・電気設備やトイレ等）を整えてきました。

就労移行支援事業は、定員割れの対策として、B型定員の増による定員の見直しと利用者の選択に応えられる提供サービスの質の向上が求められています。

就労継続 B 型事業では、新商品開発に向けて取り組み、牛乳パックを活用したペンケースや名刺入れ等、ランと木工製品やエコクラフトを組み合わせた作品を作成販売し、好評を得ています。今後は、販売ルートの開拓及び製品の価格設定等に検討が必要となります。

放課後等デイサービス事業は、平成 24 年度（下表－1 参照）からの推移をみますと、本年は、2,948 名（平均 10.2 名）と大幅な増加となっています。その要因には、デイと日中の利用者のカウント方法の見直しと相談支援事業所からの紹介や保護者の見学等が増えてきたことが挙げられます。

表－1：過去 5 年間の延べ利用人数、延べ開所日数、年平均利用者数

※延べ利用人数の下は、延べ開所日数と 1 年間の年平均利用者数です。

	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
デイ	2483 名 (292 日) (8.5 名)	1808 名 (292 日) (6.1 名)	2307 名 (292 日) (7.9 名)	2649 名 (290 日) (9.1 名)	2948 名 (290 日) (10.2 名)
日中	948 名 (292 日) (3.2 名)	919 名 (292 日) (3.1 名)	811 名 (292 日) (2.8 名)	294 名 (290 日) (1.0 名)	147 名 (290 日) (0.5 名)

日中一時支援事業では、サービスを多く利用していた児童が卒業とともに利用終了となった事が減少の要因です。今後は各市町村行政や学校への広報活動を強化すると共に、職員研修等を通じた支援技術の向上が課題となります。

支援については日常生活における基本的動作の習得、集団生活及び生活環境に応じた、適切な療育支援を基本に掲げ事業を実施しています。

グループホーム「ゆーキー」は、課題として、利用待機者の増加と女性向けのホームニーズに対応するには早期の新設がありますが、県への施設整備の国庫補助金申請と建設現場の確認作業を終え、交付決定に向けた諸準備を行なっています。

相談支援センター「さと」は、相談件数も大幅に増え、障がい者の地域生活のための相談支援ネットワーク構築を行ないました。前年比では、発達障害分野が増加しました。サービス等利用計画は、利用者の意向を踏まえ、それぞれの地域で日常生活、社会生活を実現できるように、関係区市町村・医療・福祉サービス機関等との連携を図り、総合的なサービスの提供を行なってきましたが、職員体制が脆弱な面があり、計画的かつ効率的な事業の遂行が課題となっています。

表一2 サービス等利用計画 モニタリング件数（平成28年度）

	身体障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい	合 計
障がい者	19	47	85	1	201名
障がい児	3	4	0	42	
計	22	51	85	43	

中部地区障害者就業生活支援センターは、登録件数が前年比 81 名増と増加し、職員 1 名が増員されて、事業を実施していきました。

表一3 登録状況（合計人数の5年間の推移）

平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
425	444	488	546	627

登録者の生活課題や問題ケースにおいて、関係機関団体等と課題解決に向け、協働して対応していますが、引き続き支援コーディネートする役割を担い、ネットワークをつくる事が求められています。また、企業への職場定着支援には、障害特性に関する専門的な視点が必要となり、企業のみでの対応は困難な為、支援能力の向上にむけて、定着支援計画を策定し実施して行く事が課題となります。

沖縄市より受託している障害者就労支援業務は、今年度の相談件数は110件（前年比30件減）で、新規相談が73件となりました。昨年と比べると減少していますが、その原因は、開所月が6月からとなったことです。

支援については、定期的なフォローアップが必要であり、中部地区障害者・就業生活支援センターと連携し生活面の安定と共に職場定着を図る事が重要となります。

法人運営においては、社会福祉法人改革に伴う定款の変更をはじめ就業規則や運営規程等の改正を行ない、平成29年度の制度施行に対応し得る運営を行いました。

## 2. 組織運営

### (1) 定款及び諸規程等に関する事項

- ①定款（変更）
- ②定款細則（変更）
- ③評議員選任・解任委員会運営細則（新規）
- ④個人情報保護規程（新規）
- ⑤慶弔規程（変更）
- ⑥役員等の報酬及び費用弁償に関する規程（変更）
- ⑦就業規則（変更）
- ⑧自立プラザ希織運営規程（変更）

### (2) 役員状況

新定款の施行に対応する理事の選任

### (3) 理事会の開催

第1回理事会（開催通知月日：平成28年5月17日）

期 日：平成28年5月24日(火)

場 所：希 織

出席数：理事7名 監事1名

議 案：第1号議案 平成27年度事業報告について

第2号議案 平成27年度決算報告について

<監査報告>

第3号議案 個人情報保護規程（案）について

第4号議案 車両管理規程について

第5号議案 新栄会慶弔規程（案）について

第6号議案 役員等の報酬及び費用弁償に関する規程（案）について

第2回理事会（開催通知月日：平成28年10月18日）

期 日：平成28年10月25日(火)

場 所：希 織

出席数：理事8名 監事2名

議 案：第1号議案 定款変更（案）について

第2号議案 定款施行細則変更（案）について

第3号議案 評議員選任・解任委員会運営細則（案）について

第4号議案 平成29年度沖縄県社会福祉施設整備補助金（障害者福祉施設）  
協議対策事業の申請について

第5号議案 農業への取り組みについて

第3回理事会（開催通知月日：平成29年1月6日）

期 日：平成29年1月13日(金)

場 所：希 織

出席数：理事8名 監事2名

議 案：第1号議案 定款変更について

第2号議案 定款施行細則変更について

第3号議案 運営規程の変更について

第4回理事会（開催通知月日：平成29年3月8日）

期 日：平成29年3月15日(水)

場 所：希 織

出席数：理事8名 監事2名

議 案：第1号議案 平成28年度資金収支一次補正予算について

第2号議案 平成29年度事業計画について

第3号議案 平成29年度資金収支予算について

- 第4号議案 就業規則の改正について
- 第5号議案 自立プラザ希織運営規程の改正について
- 第6号議案 評議員選任・解任委員会委員の選任について
- 第7号議案 新評議員の推薦について

#### (4) 評議員会の開催

第1回評議員会(開催通知月日:平成28年5月17日)

期 日:平成28年5月24日(火)

場 所:希 織

出席数:評議員17名 監事1名

議 案:第1号議案 平成27年度事業報告について

第2号議案 平成27年度決算報告について

<監査報告>

第3号議案 個人情報保護規程(案)について

第4号議案 車両管理規程について

第5号議案 新栄会慶弔規程(案)について

第6号議案 役員等の報酬及び費用弁償に関する規程(案)について

第2回評議員会(開催通知月日:平成28年10月18日)

期 日:平成28年10月25日(火)

場 所:希 織

出席数:評議員15名

議 案:第1号議案 定款変更(案)について

第2号議案 定款施行細則変更(案)について

第3号議案 評議員選任・解任委員会運営細則(案)について

第4号議案 平成29年度沖縄県社会福祉施設整備補助金(障害者福祉施設)  
協議対策事業の申請について

第5号議案 農業への取り組みについて

第3回評議員会(開催通知月日:平成29年1月6日)

期 日:平成29年1月13日(金)

場 所:希 織

出席数:評議員12名

議 案:第1号議案 定款変更について

第2号議案 定款施行細則変更について

第3号議案 運営規程の変更について

第4回評議員会(開催通知月日：平成29年3月8日)

期 日：平成29年1月13日(金)

場 所：希 織

出席数：評議員12名

議 案：第1号議案 平成28年度資金収支一次補正予算について

第2号議案 平成29年度事業計画について

第3号議案 平成29年度資金収支予算について

第4号議案 就業規則の改正について

第5号議案 自立プラザ希織運営規程の改正について

第6号議案 理事の選任について

(5) 評議員選任・解任委員会の開催

第1回評議員選任・解任委員会(開催通知：平成29年3月16日)

期 日：平成29年3月22日(水)

場 所：希 織

委員数：5名

出席数：4名

議 案：第1号議案 評議員の選任について

(6) 監事の監査および報告

期 日：平成27年5月13日(金)

場 所：希 織

出 席：監事2名

内 容：平成27年度事業監査・会計監査

期 日：平成27年5月24日(火)

場 所：希 織

出 席：監事2名

内 容：平成27年度事業監査・会計監査結果について  
理事会・評議員会にて報告

### 3. 事業

#### (1) 設置事業（施設事業報告書は別掲）

社会福祉事業	種別	事業名および概要
	第二種	障害福祉サービス事業就労移行支援事業 施設名 自立プラザ希織 定員 18名 事業開始年月日 平成19年4月1日
	第二種	障害福祉サービス事業就労継続（B型）支援事業 施設名 自立プラザ希織 定員 22名 事業開始年月日 平成19年4月1日
	第二種	障害福祉サービス事業児童デイサービス 施設名 ちゅらら 定員 10名 事業開始年月日 平成18年4月1日
	第二種	障害福祉サービス事業共同生活援助事業 事業所名 グループホームゆーき 定員 7名 事業開始年月日 平成24年3月1日
	第二種	特定相談支援事業 事業所名 相談支援センターさと 事業開始年月日 平成26年4月1日
公益事業		障害者就業・生活支援センターにじ 事業所名 中部地区障害者就業・生活支援センター 事業開始年月日 平成16年6月1日
収益事業		なし

#### (2) 受託事業

①沖縄市就労センターにおいて相談業務の実施

### 4. 苦情への対応に関する実施体制

第三者委員2名、苦情受付担当者、苦情解決責任者配置し実施  
毎月1回（第4火曜日）を第三者委員による苦情相談日として実施

## (1) 平成28年度相談状況

相談内容：苦情はなく、趣味・働きたい職業・利用者同士の関係づくり・家族関係・体調の事・恋愛等々多岐にわたる悩み事相談等となっています。

月	利用者より	家族より	職員より	外部より
4月	2	なし	なし	なし
5月	1	なし	なし	なし
6月	1	なし	なし	なし
7月	1	なし	なし	なし
8月	1	なし	なし	なし
9月	2	なし	なし	なし
10月	3	なし	なし	なし
11月	1	なし	なし	なし
12月	2	なし	なし	なし
1月	3	なし	なし	なし
2月	3	なし	なし	なし
3月	2	なし	なし	なし
合計	22	0	0	0

## 5. 管 理

労務・会計・登記・職員の管理は、法令及び規程等に沿って、手続き及び処理がなされました。

### (1) 労務管理

- ① 三六協定書、就業規則の労働基準局への提出
- ② 職員健康診断の実施 平成28年9月21日

### (2) 会計管理

税理士事務所との契約による会計指導継続導入

### (3) 登記事項

平成26年度末の資産総額変更登記 平成28年5月27日

### (4) 職員採用および配置（平成29年3月31日現在）

職 員（育児休2名含む）	18名
臨時職員採用（パート3名含む）	13名



(5) 職員配置状況：職員の配置は、各事業とも基準又は契約書に基づき、配置し事業を実施しています。

自立プラザ希織 ( ) は臨時・嘱託職員												
施設長	就 労 移 行			就労継続B		サービス管理責任者	事務員	医 師	栄養士	調理員		
	生活支援員	職業指導員	就労支援員	生活支援員	職業指導員							
指定基準	1	1	2	1	1	3	1					
4月実績	1	1	2 (2)	1	1 (1)	3 (3)	1	2	(1)	(1)	(3)	
3月実績	1	1	2 (2)	1	1 (1)	3 (3)	1	2	(1)	(1)	(3)	

中部地区障害者就業・生活支援センター					
指定基準	所長 1	就労支援担当 3	生活支援担当 1	ジョブコーチ 0	0
配置数	所長 1	就労支援担当 4	生活支援担当 2	ジョブコーチ 0	事務1相談1

放課後等デイサービス ちゅらら				
指定基準数	所長 1	児童発達支援管理責任者 1	保育士 1	支援員 1
配置数	所長 1	児童発達支援管理責任者 1	保育士 1	支援員 4

共同生活援助事業所ゆーき				
指定基準数	所長 1	サービス管理責任者 1	支援員 0	世話人 3
配置数	所長 1	サービス管理責任者 1(兼)	支援員 1	世話人 3

障害者相談支援事業 さと		
指定基準数	管理者 1	相談専門員 1
配置数	管理者 1	相談専門員 2

## 自立プラザ 希織

### 1. 総 括

#### (1) 就労移行支援事業

就労移行支援事業では、一人ひとりの障がい特性や希望などを考慮して、個別支援計画書を作成し就労に係る総合的な支援を行ってきました。

特別就労支援の勉強会では、個別に就職までの訓練の必要性を話し合い、課題についての振り返りや相談を実施。就職までのイメージや目標が持てるようになったと同時に意欲・意識の向上に繋がり就職まで結び付ける事が出来ています。その他にも職業自立に向けて挨拶訓練、履歴書練習、面接練習、生活面への支援など、特別に時間を設けることで効果的に支援を進めることができました。

発達障がい（知的に障がいを伴わない自閉症、アスペルガー症候群、注意欠陥多動性障がい）の方への就労支援にも取り組みました。知的に障がいを伴わない事から、本人の自己理解、意思決定に重点を置き支援しました。今年度は、1名の方が在籍しA型事業所への就職者1名、となっています。

施設外授産は、中部バイロン（中部リサイクルセンター）において、ペットボトルの分別及びラベルはがし、液体こぼし・洗浄などの作業に取り組んできました。朝のミーティング時、工場内での安全面や作業目標、利用者1人ひとりの課題を確認し合い、「就職」への意識を高めることができるよう支援を行ってきましたが、8月をもって、利用者6名という契約人数の確保が厳しいと共に利用者が作業内容になじまないため、今季8月期を持って、作業の継続が厳しく施設外就労を控える。

さらに、園芸（ラン栽培）及び農作業の作業を通じ個々の特性を見極め、集中力や作業スピードの向上を図り、それと同時に働く上で大事な「報告・連絡・相談」の必要性及び規律・規則、挨拶・言葉遣いなどのコミュニケーション能力向上での支援も強化し職場実習、雇用前の準備支援を徹底して取り組んできました。

#### <過去5年間の利用者・就職者数>

年度	24年度	25年度	25年度	27年度	28年度
平均利用者数	12.7名	12名	15.6名	13.5名	6.1名
雇用	6名	13名	6名	10名	2名

#### (2) 就労継続（B型）支援事業

木工班では安全面に十分配慮し、利用者1人ひとりの能力に合った、支援に取り組みました。作業においては、各種材料・自然木を利用した子供用椅子・机、飾り棚・ミニチュア（椅子・テーブル）、自然木を活かした「大人・子供用椅子」を製作し、また、材料として使用する木材の皮むき・ペーパー掛け・オイルステン塗りの支援を実施しました。利用者個々

の能力に合わせ、補助具や工程表（図式）を用いる事で正確性向上を目指し、製作に携わる支援を行なってきました。

園芸作業では、滝壺・ヤシの実・滑車の商品製作、観葉植物の植え付け・水掛け作業を行ないました。

公園清掃・草刈り作業委託業務は、沖縄市役所公園課より4箇所（比嘉公園・胡屋第二公園・カメ公園・グルクン公園）の業務委託を受け、週3回（月・水・金）の午前中を公園清掃、月1回の草刈り作業を実施しました。清掃作業では、ほうき・レーキの使用方法や手順に沿って取り組めるよう支援を行い、トイレ清掃ではデッキブラシ・便器用ブラシの使用方法や手順沿った作業の支援を行ないました。草刈り作業では、手押しの草刈り機の操作方法、刈り方の手順や安全管理を支援し、刈った芝・草の収集・袋詰めなど作業を分担し、個々が責任を持って取り組めるよう支援を行いました。また、個人宅の草刈り作業・整備作業も取り入れました。

ちゅいたれー班は、1人1人の作業意欲の向上を目標に個別のスケジュール表や、作業手順書を使用し、作業工程の理解度を高める配慮をしてきました。新商品の開発や個々の能力向上など、やりがいをもって作業に取り組めるよう支援しました。多肉植物・花卉管理では、季節に合わせた水やり、寄せ植えや株分けの際もマンツーマンで支援し、まつりなどのイベントを中心に販売を行なってきました。

「琉球銀行諸見支店プランター花卉管理」では、土づくり・土入れ・観葉植物の移植・灌水・納品までを行ない、月1回程の手入れにて花卉管理ができるよう支援しました。室内作業は商品製作の工程を分担して取り組み、一人ひとりに合った補助具を作成し、能力・意欲向上を目指した支援を行ない、紙すき「フォトフレーム」「コースター」は、在庫があるため「ハガキ」製作に力を入れてきました。ランの容器は、デザイン性と植物の特徴に合わせた試作品の製作を行ないました。

洗濯作業は、施設内で使用している布巾・雑巾の洗濯・干し・片付けまでの作業に責任を持って取り組めるようスケジュール表を使用し支援しました。

ポスティング作業は、就労班と連携し平成27年9月より施設近隣の地域へのポスティング作業を実施し、軽作業となるチラシ折り作業や利用者さんの体力の維持・向上を目的とし、利用者2名・職員1名で配布作業を導入。現在、250件の配布に取り組んでいます。利用者も慣れてきたこともあり今後、配布件数を増やす計画を検討しているところです。

ドリームファーム（農場）にて、8月期から作付準備を行い、ジャガイモ（234kgの収穫）、玉ねぎ（約580個）等の栽培を行うと共に、ハウス内のマンゴーの肥培管理、11月期より、ラン（胡蝶蘭、カトレア）等の栽培、及び園芸作業場、農場の作業場環境等、利用者の安全面に十分配慮した施設整備を図る。

縫製・刺繍班では、沖縄市立図書館より注文を受け、絵本バック製作を中心とした作業を行ってきました。利用者一人ひとりの障がい特性や能力に応じ、個々の力を引き出しながら製作を行い、キャンバス生地を利用した新商品の製作などに力を入れてきました。沖縄市立図書館より委託を受けて、新生児の集団検診の際に配布する「絵本」のプレゼント、「通称ブックスタートキャンペーン」の絵本の入れ物として、手提げカバンの注文を受け1700個納品しました。

刺繍作業は、コンピューター刺繍ミシンの操作を行い、8月期までは、キャンバス生地のデザインの一部として刺繍し、新商品の開発に努めてきましたが、9月より、刺繍機の故障

により、作業を中断しています。希織オリジナル商品の製作・販売・注文品製作は、これまで通り、沖縄の伝統的な生地を利用したエコバックや民芸品バックなどを製作し、福祉まつり・福祉展示フェアでの出店販売を行ってきました。沖縄県交通安全協会より、交通安全週間に市民に配布するお守り製作に務め、納品を行ってきました。

商品展示・販売を前年度より継続し、那覇市国際通りのドン・キホーテ5階に設置されているバリアフリーネットワーク会議の託児所・観光案内所にて、商品の展示・販売を行ってきました。

今年度は、新商品の開発を行い、次年度からの販売に向けて（牛乳パックを使った小物製作、ペンケース、名刺入れ、）力を入れてきました。

商品の販売については、ホームページの活用や販売の機会・販売箇所の確保が難しく、授産収入の向上に繋ることができず、課題が残りました。

＜過去5年間の平均利用者数就労継続B型 定員22名＞

年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
平均利用者数	23.14名	22.61名	22.65名	20.67名	20.5名

④就労継続（B型）支援事業 過去5年間の収支・利用者工賃

	年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
木工班	収入	1,177,023	1,352,183	1,253,368	1,538,504	1,845,802
	支出	1,207,765	1,322,305	1,171,535	1,260,279	1,192,294
支出うち利用者工賃		730,683	734,123	704,410	644,270	705,852
差 額		△30,742	29,898	81,833	278,225	653,508
縫製 ・刺繍班	収入	2,043,162	2,067,676	2,214,054	1,077,438	1,762,755
	支出	2,112,428	2,698,868	1,961,455	1,422,847	1,716,595
支出うち利用者工賃		990,935	958,419	959,467	880,722	988,719
差 額		△69,266	368,808	252,599	△345,409	46,160
ちゅいたれ～班	収入	291,243	357,806	363,837	311,134	198,175
	支出	833,835	671,478	773,676	686,906	559,424
支出うち利用者工賃		719,436	674,677	710,321	672,024	446,060
差 額		△542,592	△313,672	△409,839	△375,772	△361,775
総 収 入		3,511,428	3,777,665	3,831,259	2,927,076	3,806,732
総 支 出		4,154,028	3,692,651	3,906,666	3,370,032	3,447,839
総利用者工賃		2,441,054	2,367,219	2,374,198	2,152,016	2,140,631
差 額		△642,600	85,014	△75,407	△442,407	358,893

## 2. 処遇・支援状況

### (1) 日課

月曜から金曜日までの日課は下表の通りで、年間の行事実施や毎月、第3金曜日には、クラブ活動(午前日課)、全体集会を実施しました。

8:30		9:00		12:00		13:00		15:45		16:00			
出 勤	清 掃	朝 会	作 業	休 憩	作 業	給 食	休 憩	作 業	休 憩	作 業	片 付	終 会	帰 宅

### (2) 支援内容

各利用者の希望を基に作成した個別支援計画に沿って下記の支援を実施しました。

#### ①作業支援

木工園芸・公園清掃作業、縫製・刺繍作業、請負作業の班において障がい特性に応じた技術支援・援助を実施しました。作業収入から必要経費を差し引いた額を、工賃規程に基づき評価し、工賃や特別手当として支給しました。

#### ②社会生活支援・日常生活支援

施設の利用者は、本人や家族の希望を基に計画相談員と共に作成したサービス等利用計画をもとに必要な福祉サービスを利用しています。何らかのストレスや不満等の訴えや、行動障害（情緒不安定行動・不適応行動）が起こることもありますが、その都度、専門的な援助技術を用いて問題解決・緩和に努め、必要に応じてケース会議（支援方法・職員体制）や家族との連絡（連携）、計画相談員、他の福祉サービスとの連絡調整を密に実施してきました。日常生活支援に関しては、整容、清潔、排泄（入浴支援）支援や、時間のけじめ等についての支援を実施しました。

#### ③医療・保健衛生・健康管理

サービス管理責任者を中心に各作業担当と連携の上、全体的な健康管理等の確認を行ってきました。また、個々の利用者のニーズに沿って、体調管理や薬の服薬などの支援を家庭と連携し支援を行ないました。

利用者の健康診断を9月と3月の年2回実施し、嘱託医による健康相談も毎月、第1金曜日の午後実施。その中で、利用者の身体的な悩みや、行動障害（情緒不安定行動・不適応行動）等のケースのカウンセリングや具体的な支援方法の助言、健康診断結果の総評などを行い、利用者個々の健康保持の支援に繋げてきました。

#### ④スポーツ・余暇活動

毎月、第3金曜日の午前中をクラブ活動日として、調理実習（カレー）、ティーボールやソフトミニバレー、グランドゴルフやレクリエーション等の活動を行い、各利用者の希望に合

わせて運動とレクに取り組み心身のリフレッシュを図ってきました。また、毎年開催される施設利用者球技大会や、ゆうあいスポーツ大会に向けて、球技のルールや集団行動での約束等の支援も実施しました。

#### ⑤家族との連携

事業説明明会では日頃の利用者の作業風景や就労状況を見学し、家族も一緒に作業体験ができる場を設定しました。家族も多数参加し、家族との情報共有も出来る場となりました。

#### ⑥地域活動

就労移行支援事業での特別就労支援の一環として施設近隣の地域（山里・山内）の美化活動を行いました。

#### ⑦一般雇用に向けた就労支援

個別に就職まで目標・課題について面談での振り返りや相談を実施し就職までのイメージや目標が持てるよう支援に取り組みました。また、特別就労支援や施設外授産での作業を通して障がい特性や適性を見極めを行い、職場開拓に取り組んできました。職場実習と同時にジョブマッチングを図り意欲・意識の向上へ繋げ就職まで結び付けるケースが多くなっています。その他にも職業自立に向けて挨拶訓練、履歴書練習、面接練習、生活面への支援など、特別に時間を設けることで効果的に支援を進めることができました。

(3) 諸行事実施状況

月	主催行事・活動	各イベントへの参加	安全・非常災害対策	給食 保健衛生関係	家族等への支援	その他
4						
5	希織ウォーキング大会			残食調査		
6		施設利用者球技大会		厨房害虫駆除作業	事業説明会	
7						
8	開所18周年					
9	定期健康診断	障がい者就職面接会		嗜好調査 厨房害虫駆除作業		
10		赤い羽根街頭募金運動 沖縄市福祉まつり ゆうあいスポーツ大会	防災訓練			
11	宿泊訓練			貯水槽清掃		
12	忘年会 年末大掃除 御用納め	沖縄市障害者展示フェアー		残食調査 厨房害虫駆除作業		
1	年始会					
2						
3	定期健康診断 (第2回)			嗜好調査 厨房害虫駆除作業		
定期的活動	クラブ活動 ソフトバレー・テニス (第3金曜日)		施設安全点検	健康相談 嘱託医 (毎月第1金曜日) 給食会議(第3木曜日) 誕生祝い食(第1水曜日) 紅茶の日(水・金)		苦情解決 (随時) 第三者委員 毎月第4火曜日

3. 利用状況

(1) 入退所状況

①就労継続支援事業 (B型)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
退所	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1

・入所者：男性2名、女子1名

・退所者：男性1名、

3月31日現在

②就労移行支援事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所	0	0	2	0	0	0	1	0	0	1	0	2	6
退所	1	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	2	7

- ・入所者：男性 6 名 女性 2 名 3 月 31 日現在
- ・就職による退所者：男性 2 名、女性 0 名
- ・その他の退所者：男性 3 名、女性 1 名

(2) 出身市町村別

①就労継続支援事業 (B 型)

	沖縄市	宜野湾市	うるま市	北谷町	中城村	読谷村	計
男性	5	0	0	3	1	1	10
女性	11	1	0	2	2	1	17
計	14	1	0	5	3	1	27

3 月 31 日現在

②就労移行支援事業

	沖縄市	宜野湾市	うるま市	北谷町	中城村	計
男性	2	3	0	1	0	6
女性	2	0	0	0	0	2
計	4	2	0	1	1	8

3 月 31 日現在

- ・利用者 35 名中、沖縄市が 18 名で 51% を占めております。
- ・その他、宜野湾市、北谷町、中城村、読谷村などから施設を利用しており中部の広範囲にわたっています。

(3) 年齢別

①就労継続支援事業 (B 型)

年齢	20~24	25~29	30~34	35~39	40~49	50~59	計
男性	0	2	1	2	3	2	10
女性	0	4	6	3	3	1	17
計	0	6	7	5	6	3	27

3 月 31 日現在



②就労移行支援事業

年齢	18～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～59	計
男性	2	0	1	2	1	0	6
女性	0	0	0	2	0	0	2
計	2	0	1	4	1	0	8

3月31日現在

(4) 療育手帳の判定状況

① 就労継続支援事業 (B型)

	A1 (最重度)	A2 (重度)	B1 (中度)	B2 (軽度)	精神障がい	計
男性	0	1	6	2	1	10
女性	0	4	7	5	1	17
計	0	5	13	7	1	27

3月31日現在

② 就労移行支援事業

	A1 (最重度)	A2 (重度)	B1 (中度)	B2 (軽度)	精神障がい	計
男性	0	1	1	4	0	6
女性	0	0	1	1	0	2
計	0	1	2	5	0	8

3月31日現在

(5) 障害等の状況

①就労継続 (B型) 支援事業

	知的障がい	知的障がい と身体障がい との重複	知的障がい と精神障がい との重複	知的障がい と視覚障がい との重複	発達障がい	精神障がい	計
男	9	0	0	0	0	1	10
女	16	1	0	0	0	0	17
計	25	1	0	0	0	1	27

3月31日現在

②就労移行支援事業

	知的障がい	知的障がい と身体障がい との重複	知的障がい と精神障がい との重複	知的障がい と視覚障がい との重複	知的障がい と発達障がい との重複	精神障がい	計
男	4	1	0	0	1	0	6
女	2	0	0	0	0	0	2
計	6	1	0	0	1	0	8

3月31日現在

③過去5年間の平均利用者数

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
就労継続 支援事業 (B型)	23.1	22.6	22.6	20.6	20.5
就労移行 支援事業	12.7	12	15.6	13.5	6.1

#### 4. 備品設備状況

(1) 冷蔵庫(ガラス扉)二階配膳室 260,800円

(2) ミニ耕耘機(管理機) 100,000円

減価償却

(1) ノートパソコン 325,500円

(2) ビューティートワレ 105,000円

#### 5. 実習ボランティア受入れ・研修等

研修・実習ボランティア等

(1) 研修状況

①施設内研修

期 日	研 修 内 容	参加人数
H28.4.15	障害者差別解消法について	9名
H28.9.7	発達障害について(障がい特性の理解と支援)	25名

②施設外研修

期日	研修・説明会名	主催
H28.6.20	社会福祉制度改革説明会	沖縄県
H28.6.22 ～6.24	全国知的障害者関係施設長 会議	日本知的障害者福祉協会
H28.7.2	第5回就労移行支援タウンミ ーティング	全国就労移行支援事業所連 絡協議会
H28.7.7 ～7.8	九州知的障害者関係職員研 修大会	九州知的障害者福祉協会
H28.7.14 ～7.15	平成28年度沖縄県相談支援 従事者初任者研修	一般社団法人沖縄社会福祉 会
H28.8.5	発達障害者就労支援基礎講 座（初級編）発達障がい の理解と支援	沖縄県発達障がい者支援セ ンター
H28.10.19	社会福祉法実務対応セミナ ー	沖縄県社会福祉協議会
H28.11.9	労働関係セミナー（「いま」求 められる法改正への対応）	沖縄県社会福祉事業共済会
H29.1.5 2.4～2.5	平成28年度沖縄県サービス 管理責任者研修	一般財団法人沖縄社会福祉 士会
H29.1.7	農福連携推進沖縄ブロック セミナー	農林水産省・沖縄地域 農業の障害就業・雇用 促進ネットワーク
H29.1.26	平成28年度第5回中部圏域 障害者関係機関等スキルア ップ研修会	沖縄県中部福祉事務所
H29.1.31	平成28年度障害者等雇用啓 発セミナー	沖縄県
H29.3.23	傷害福祉サービス等事業所 集団指導	沖縄県
H29.3.28	沖縄市事業者説明会	沖縄県中部保健福祉 事務所・沖縄市

(1) 実習・研修・ボランティア受け入れ

期 日	実習・研修内容	人 数	学 校 名
H28.5.30～6.10	特別支援学校現場実習	2	はなさき分校
H28. 8.22～8.26	特別支援学校現場実習	1	はなさき分校
H28. 10.3～10.14	特別支援学校現場実習	2	はなさき分校
H28. 10.19～21.	現場実習	2	沖縄ろう学校
H28.11.14～18	特別支援学校現場実習	1	西崎特別支援学校
H28.11.24	実習事前体験	2	ソーシャル専門学校
H28.11.28～12.11	施設実習	2	ソーシャル専門学校
H28.2.13～24	施設実習	1	沖縄キリスト教短期大学
H28. 2.27～3.10	施設実習	2	沖縄キリスト教短期大学

## 放課後等デイサービス・日中一時支援事業

### 1. 総括

平成 28 年度は事業所移転に伴い、新しい環境の中でのスタートとなりました。その中で、児童が安心して過ごせる環境整備を心掛けると共に多くの児童が必要とするコミュニケーション面の支援に力を入れました。同年代のグループワークや集団レク、スポーツ等のチーム戦を通じたお互いの関わり方や距離間、気持ちの伝え方などを楽しみながら学ぶよう配慮しています。また、中・高生を対象に路線バスを利用した買い物体験や、ハロウィン行事を通じた地域事業所との交流を保護者や児童から再度希望する声があった事を踏まえ今後の活動内容へ活かしていきます。さらに、法人のドリームファームでのジャガイモ収穫体験をした際には児童の生き生きした表情を観る事ができ、収穫・おやつ作り・食べるという一連の流れを自分たちで行う事で食育にも繋げる事が出来ました。日中一時支援では見守り程度の一時預かりとなっていますが、デイサービスと同様の活動・行事を行う事で、充実した時間が過ごせるよう支援を行っています。

利用児童の人数については、放課後等デイサービスで前年度と比べ 299 名の増加となり 1 日平均 10.16 名と定員数を超えています。一方、日中一時支援では 147 名の減少で 1 日平均 0.5 名と前年度の半数となりました。近年、放課後等デイサービスを利用した療育の需要が増加する反面、療育を目的としない日中一時支援での一時預かり希望者が年々減少していることが要因であると考えられます。今後の課題としては、児童の成長に沿った社会性を育めるよう、地域交流や社会資源の活用など様々な活動を通じたルールやマナー面での支援の提供や、高校卒業後の就労等を含めた社会生活に必要なコミュニケーション能力の向上を目指した支援の提供が課題となります。

### 2. 開設日及び時間

平日（月曜日～金曜日）：10時～19時

土曜日・長期休暇：8時30分～17時30分

※日中一時支援事業も同様。

### 3. 利用人数

#### (1) 放課後等デイサービス事業

延べ利用人数 2948 名 延べ開所日数 290 日 年平均利用者数 10.16 名

月の 利用 人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月
	264名 (25日) (10.56名)	232名 (23日) (10.09名)	221名 (25日) (8.84名)	250名 (24日) (10名)	267名 (26日) (10.27名)	236名 (24日) (9.83名)
月の 利用 人数	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	245名 (24日) (10.20名)	230名 (24日) (9.58名)	242名 (23日) (10.52名)	248名 (23日) (10.78名)	237名 (23日) (10.30名)	276名 (26日) (10.61名)

※利用人数の下は、開所日と1日の平均人数です。

(2) 日中一時支援事業

延べ利用人数 147 名 延べ開所日数 290 日 年平均利用者数 0.5 名

月の 利用 人数	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
	19 名 (25 日) (0.76 名)	13 名 (23 日) (0.56 名)	22 名 (25 日) (0.88 名)	18 名 (24 日) (0.75 名)	22 名 (26 日) (0.84 名)	7 名 (24 日) (0.29 名)
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
	8 名 (24 日) (0.33 名)	12 名 (24 日) (0.5 名)	5 名 (23 日) (0.21 名)	4 名 (23 日) (0.17 名)	10 名 (23 日) (0.43 名)	17 名 (26 日) (0.65 名)

※利用人数の下は、開所日と1日の平均人数です。

(3) 過去5年間の延べ利用人数、延べ開所日数、年平均利用者数

	28 年度	27 年度	26 年度	25 年度	24 年度	23 年度
デイ	2948 名 (290 日) (10.16)	2649 名 (290 日) (9.1 名)	2307 名 (292 日) (7.9 名)	1808 名 (292 日) (6.1 名)	2483 名 (292 日) (8.5 名)	2594 名 (291 日) (8.9 名)
日中	147 名 (290 日) (0.5 名)	294 名 (290 日) (1.0 名)	811 名 (292 日) (2.8 名)	919 名 (292 日) (3.1 名)	948 名 (292 日) (3.2 名)	962 名 (291 日) (3.3 名)

※延べ利用人数の下は、延べ開所日数と1年間の年平均利用者数です。

#### 4. 事業内容

##### (1) 放課後等デイサービス事業・日中一時支援事業

4月	進級祝い、カラオケ、誕生会	5月	ボウリング大会、誕生会 路線バス・買い物体験(中・高生対象)
6月	遠足(こどもの国)、誕生会	7月	お楽しみ会(夏祭り風レク) 誕生会
8月	水遊び体験(金武町大川児童公園) 遠足(Dino 恐竜パーク) 展示・販売会、誕生会	9月	お楽しみ会(ウォーキング・ウォークラリー・お菓子作り) 誕生会
10月	誕生会、ハロウィン交流会 (希織、相談支援センターさと、 デイサービス Rycom、もろみの里)	11月	ミニミニ運動会
12月	クリスマス会、誕生会	1月	正月遊び、誕生会
2月	節分レク、恵方巻き作り 誕生会	3月	ぬちまーす工場見学 誕生会

##### ①創作活動

月ごとにテーマを決め、一作品を仕上げられるように支援を行っています。

指先の訓練に加え、集中力の向上や見本を見て真似る・アレンジする観察力や想像力を育めるようサポートしも目標とし、色や道具の使い方などの工夫をすることで、楽しみながら取り組めるようにしています。

また、個々の力に合った難易度を設定する事で、年間の作品の中で個々の成長が感じられるようにしています。

##### ②学習活動

学校からの宿題や、家族から学習指導の要望がある児童は要望に沿ってデイでも行えるように取り組んでいます。要望がない児童に関しても土曜日や長期休暇などに学習の時間を設けることで、集中力の持続や宿題を継続して行う事で達成感や充実感へ繋げられるように支援を行っています。

##### ③日常生活動作の訓練

衣服の着脱、トイレ、食事のマナー、日々使うものの準備や片付けなど、身の回りの事が出来るように支援を行っています。デイで出来るようになった事を自宅でも行う機会を設けてもらう事で、将来の自立に向けた支援を家庭と連携して行っています。

#### ④社会生活適応訓練

買い物支援を行う事で、金銭授受や店内でのマナーを学んでいます。また、DVD教材の使用や地域散策・外出支援を通して交通ルールの理解や公共の場でのルールやマナーの習得が出来るよう支援を行っています。

#### ⑤レクリエーション活動

集団で出来る遊びやスポーツを通して、他者との関わりが持てるよう配慮し、心身共に健康で安定した生活が送れるよう支援を行っています。

#### ⑥送迎サービス

家族の要望に応じて学校や自宅への送迎を行い、その際は乗車中のマナーや乗車、下車する時の安全確認ができるよう指導しています。

#### ⑦個別支援と記録

家族の要望を確認し、活動の中に取り入れます。

活動状況を日々記録することで今までの支援のあり方を見直し、より良い支援が提供できるように努めました。家庭や学校、関係機関との情報交換や連携を深める事で、児童の成長や変化に伴う新たなニーズにも対応できるようにしました。

#### ⑧児童の療育支援・保護者の相談支援

家族から児童に関して相談があった場合は、電話での対応や事業所へ直接来所をしていただき、相談内容によっては他の関係機関と連携を取りながら支援を行っています。

## 5 職員研修

### ① 沖縄県相談支援従事者初任者研修

日 時：平成 28 年 7 月 14 日(木)～平成 28 年 7 月 15 日(金)

場 所：浦添市てだこホール

### ② 「新サポートノートえいぶる」講習会

日 時：平成 28 年 11 月 17 日(木)

場 所：沖縄市福祉文化プラザ 交流ホール

### ③ 沖縄県障害者虐待防止・権利擁護研修

日 時：平成 28 年 2 月 20 日(月)

場 所：沖縄県総合福祉センター ゆいホール



## 6. 学校説明会、事業所交流会

### ①美咲特別支援学校 学校公開日

日 時：平成 28 年 5 月 27 日（金）

場 所：美咲特別支援学校 会議室

### ②美咲特別支援学校はなさき分校懇談会

日 時：平成 28 年 6 月 8 日（水）

場 所：美咲特別支援学校はなさき分校 視聴覚室

### ③美咲特別支援学校懇談会

日 時：平成 28 年 6 月 17 日（金）

場 所：美咲特別支援学校 会議室

### ④障がい児サービス支援事業所顔合わせ会(沖縄市自立支援協議会 こども部会主催)

参加者：國吉、喜友名

日 時：平成 28 年 9 月 28 日（水）

場 所：沖縄市福祉文化プラザ 交流ホール

### ⑤障がい児サービス支援事業所顔合わせ会(沖縄市自立支援協議会 こども部会主催)

日 時：平成 29 年 1 月 19 日（木）

場 所：沖縄市福祉文化プラザ 交流ホール

### ⑥美咲特別支援学校懇談会

日 時：平成 29 年 2 月 23 日（木）

場 所：美咲特別支援学校 会議室

## グループホーム「ゆーきー」

共同生活援助事業（グループホーム）では、就職又は就職するための訓練をしている方を対象に、サービスを提供しています。

利用者にグループホームの規則の遵守について、その都度本人との話し合いや、全体ミーティングで取り組みに対する意識付を行ってきました。一人暮らしで必要となる近隣住民と協調して暮らすために必要なマナー（大声、TV や音楽等の音量、近隣住宅へのチリ・タバコの吸い殻の投棄等）についても話し合う機会を多く持ち、課題解決に取り組んできました。

今年度は、利用者2名がそれぞれ退去していきました。1名は仕事を退職し、生活が乱れ、ホームに帰らない日が多くなり、何度も話し合いを重ねましたが、上手くまとまらず、退去となりました。もう1名は、入居者とのトラブルが多くなり、本人・家族の意向もあり、実家で生活する事となり退去しました。

また、利用者の就業及び生活実態に関する情報の収集が不十分なために、利用者の生活に乱れが生じ、ホーム利用者全体の生活リズムにも大きく影響を及ぼすケースも発生し、関係機関団体・専門機関や企業との連携の強化と夜間の支援体制の在り方が課題として表出しています。

美化活動では庭に花などを植え、植木の剪定や雑草の除去等で利用者への美化活動への意識付も行ってきました。

また、地域住民との交流という目的から、自治会にも加入し地域の催しに参加することも実施してきました。

次年度は、他にもグループホームの利用希望者がいること、1人暮らしでの生活援助を希望、女性の利用相談も多く有る為、グループホームの創設等が課題となっています。

### 1. 支援員の勤務体制

変動制勤務 07:30～16:30 8:30～17:30 10:00～19:00

### 2. 世話人の勤務体制

3名体制 勤務時間 06:00～11:00、 16:00～21:00

### 3. 緊急時体制

夜間及び災害時等の緊急時連絡先等については、利用者に通知すると同時に、グループホームにも掲示等をして対応しています。

#### 4. 利用状況

##### (1) 入居状況

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
7名	7名	7名	8名	8名	8名	8名

H29

11月	12月	1月	2月	3月	月平均
8名	8名	8名	8名	8名	7.75名

##### (2) 出身市町村別

沖縄市	宜野湾市	那覇市	読谷村	うるま市	恩納村	嘉手納町	合計
3名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	9名

※ホームの利用に出入りがあるため、合計変動があります。

##### (3) 年齢別状況

～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	合計
0名	3名	2名	1名	1名	1名	8名

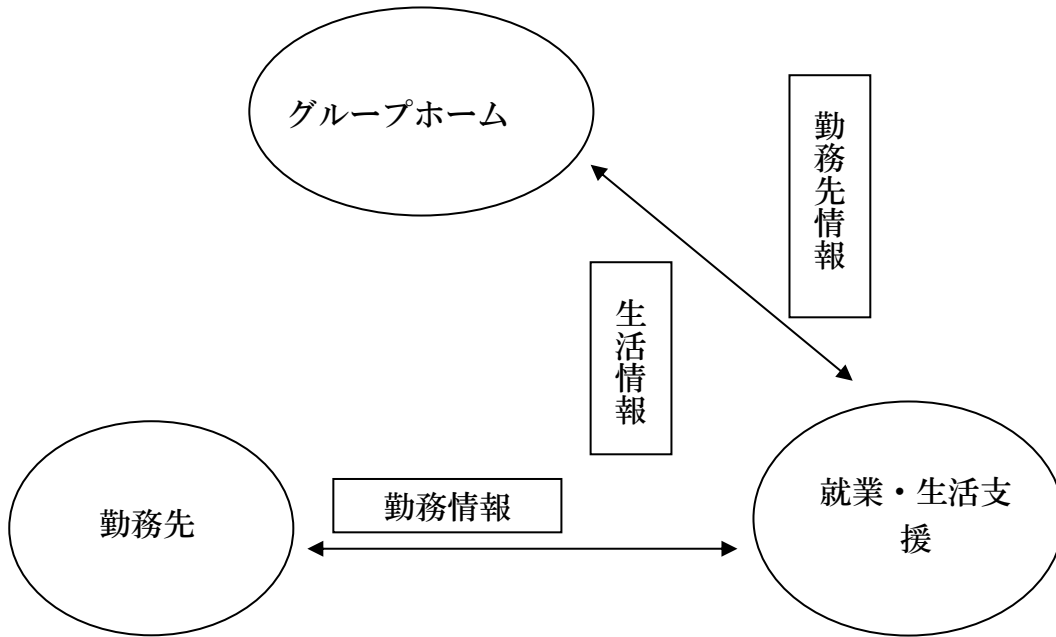
##### (4) 就労状況

サービス業	清掃業	クリーニング業	就労移行	就労継続(B)	合計
2名	2名	1名	2名	1名	8名

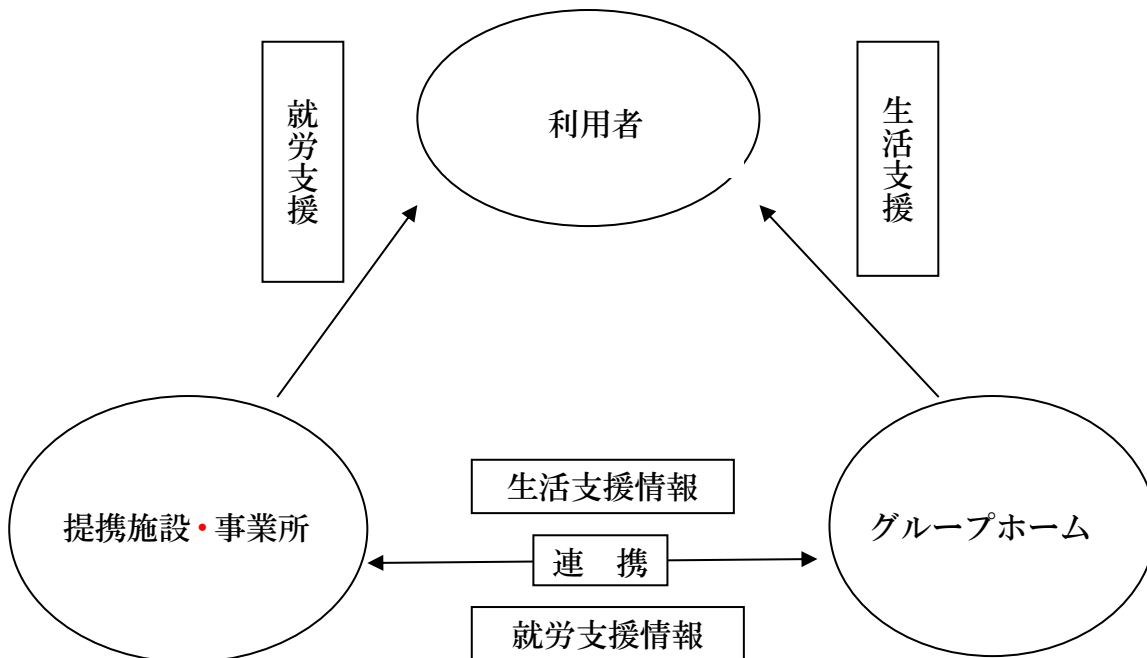
##### (5) 整備状況

- ・1階応接間に、エアコン取り付け
- ・1階台所に、LED取り付け
- ・1階に衣類乾燥機導入
- ・グループホーム建物周囲美化活動
- ・共同使用部分の定期的なワックス及びニス塗

【障害者就業・生活支援センターとの連携図】



【就労支援施設・事業所との連携図】



# 相談支援センター「さと」

## 1. 総括

今年度の相談業務を見ると、精神障がいの方の計画相談依頼件数が多くまた、病院に通院されている方も増え医療機関・サービス事業所との連携が不可欠であった。

各関係機関（基幹相談支援センター・委託相談員・障がい福祉課）との連携を強化し情報共有をはかりながら、利用者が安心して過ごすことができるよう支援に取り組んできました。

事業の遂行には、計画的かつ効率的にできる様また、相談者にとって有効且つわかりやすい計画作成を念頭に入れた総合的な相談支援に向けてより一層努めていきます。

## 2. 支援方針

市町村障害福祉サービス事業者等との連携を図り、事業に当たっては、利用者の心身の状況、その置かれている環境等に応じ、利用者の選択に基づき、適切な障害福祉サービス等が多様な事業者から、総合的かつ効率的に提供されるよう配慮した支援を心掛け事業に取り組む。

指定特定相談支援の実施に当たっては、利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立って、支給決定障害者等に提供される障害福祉サービス等が特定の種類又は特定の障害福祉サービス事業者に不当に偏することのないよう、関係区市町村・医療・福祉サービス機関等との連携を図り総合的なサービスの提供に努める。

## 3. 計画相談支援およびモニタリングの実施内容

- ・日常生活全般に関する相談（情報提供、連絡調整、相談等）
- ・アセスメントの実施
- ・サービス等利用計画案の作成
- ・サービス担当者会議の開催
- ・サービス等利用計画の作成
- ・継続的な評価「モニタリング」の実施

相談者よりサービス利用計画の作成依頼を受け付けた後、本人と面談を行ない聞き取り調査。調査の上で必要な本人の現在の状況及び今後の意向を確認するよう努め、計画作成にあたり、必要に応じて会議を開催するなどし、各関係機関との情報共有、情報伝達など密に行なってきました。本人の意向に沿うよう有効且つわかりやすい計画になるよう作成し、また、モニタリングの時期に合わせて本人と面談を実施しました。

#### 4. サービス等利用計画 計画策定人数

	身体障がい		知的障がい		精神障がい		発達障がい		合計
	平成 27 年	平成 28 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 28 年度
障がい者	14	21	47	40	18	36	1	1	130 名
障がい児	1	1	8	7	12	0	1	24	
計	15	22	55	47	30	36	2	25	

#### 5. サービス等利用計画 モニタリング件数（平成 28 年度）

	身体障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい	合計
障がい者	19	47	85	1	201 名
障がい児	3	4	0	42	
計	22	51	85	43	

## 中部地区障害者就業・生活支援センター 「にじ」

### 1. 総括

3市2町3村の中核的役割を担うセンターは、本人、家族、ハローワーク、市町村行政、特別支援学校、相談支援事業所、医療、企業、就労支援施設等からの相談件数は、4,773件（前年比1,560件減）また、新規登録者は82名（前年比24名増）でした。新規登録者の内訳は、身体障がい者7名 知的障がい者37名(前年比4名増) 精神障がい者36名(前年比22名増)その他の障がい2名(前年比1名増)でした。今年度は、精神面での支援が必要な方の相談が顕著で、精神科に通院されている方が、高い比率となっており、又、精神保健福祉手帳所持者の中でも、統合失調症・うつ病・双極性障害と診断された方だけではなく発達障がいと診断された方が増え多様化している傾向です。手帳未取得段階からの相談者も増加しており、それに対応する為、関係機関との連携を強化し、特に医師・ケースワーカー・ハローワークの職員・相談支援専門員との密な情報共有と支援の統一の為の連携を図りました。しかし新規登録者の中には未就労ケース等、対応困難な事例が増え、多様ニーズを持つ相談者に対し対応できるチーム作りとスキルアップを行い課題解決に取り組む事も急務です。

特別支援学校より一般就労した卒業生の支援を円滑に引き継いでいく為に在学中から当センターとの早い段階での関わりが重要だと感じ、特別支援学校との連携による在学中から卒業後までの一貫したフォローを強化し企業を開拓し就労に繋げたケースもありました。

また、企業への職場定着支援に対する介入頻度が高い為、どの段階で支援をフェードアウトすべきかのタイミングとコーディネート力が求められています。個々の特性が異なり、又専門的な視点が必要で、企業のみでの対応は困難な為、支援のスキルの高さが求められています。年々増加する相談者・定着支援への対応や就労支援のニーズの多様化等から、限られた時間と支援者で、登録者への対応、定着支援の頻度が十分行き届いてないと感じる事もありました。その事から、支援能力の向上と定着支援の計画を策定し実施して行く事が課題です。

中部圏域自立支援協議会・沖縄県自立支援協議会の構成員として中部圏域の課題を県にあげ、中部圏域(地域)の課題解決に取り組みました。又、うるま市障害者施策推進協議会・沖縄県障害者施策推進協議会の委員の依頼を受け、夫々の障害者福祉計画策定に携わりました。

### 2. 支援対象障害者の状況

① 登録状況(障害種別、就業状況) ※就労継続支援A型に雇用されている方は在職中に含んでいません。(人)

	身体障害		知的障害		精神障害	その他の障害	合計
	(うち重度)		(うち重度)				
在職中	58	28	251	125	63	2	374
求職中	75	51	86	58	89	3	253
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	133	79	337	183	152	5	627

②登録状況（合計人数の5年間の推移）

平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
425	444	488	546	627

②-1 支援対象障害者（登録者）の居住地の状況 (人)

①沖縄市内	279
②同一障害保健福祉圏域内（①を除く）	339
③上記①及び②以外	9
合計	627

③平成 28 年度新規求職者人数（述べ人数） (人)

身体障害	知的障害	精神障害	その他	合計
7	37	36	2	82

③-1 上記③の新規登録者の利用経路（支援センターを利用するに至った（経路））

①ハローワーク	20
②地域障害者職業センター	1
③特別支援学校	25
④就労移行支援事業所	5
⑤上記④以外の福祉サービス事業所	8
⑥福祉事務所、市町村役場等行政機関	5
⑦直接利用（家族を含む）	0
⑧その他※	18
合計	82

※「⑧その他」の具体的な利用経路

医療、企業、就職・生活支援パーソナルサポートセンター、ホームページ、  
職業能力開発校



④一般事業所への就職件数（※1ヵ月以上の雇用）

(件)

	身体障害		知的障害		精神障害	その他	合計
		(うち重度)		(うち重度)			
一般 (30 時間以上)	6	(2)	38	(15)	21	1	66
短時間① (20 時間以上 30 時間未満)	1	(1)	4	(2)	3	0	8
短時間② (20 時間未満)	0	(0)	0	(0)	0	0	0
合計	7	(3)	42	17	24	1	74

⑤1 年経過時点の定着率

(%)

	身体障害		知的障害		精神障害	その他	合計
		(うち重度)		(うち重度)			
合計	80, 0%	100.0%	95, 5%	88, 0%	77, 8%		89, 8%

3. 沖縄市障害者就労支援業務委託について

今年度の相談件数は110件で前年度より30件減少していますが、沖縄市就労支援センターの開所が6月だった事が要因として挙げられます。一方で新規相談は73件で、前年度より3件増加しています。

障がい種別での内訳は、精神障がい者（57件）からの相談が多いですが、昨年と比べると減少しています。また、知的障がい者（36件）の相談者は昨年と比べほぼ同数です（平成27年度＝37件）。身体障がい者は30件で、前年度に比べて7件増加しており、就労中の方の相談（転職や福祉サービス利用検討）が主でした。未受診を含めたその他の障がい者は15件で前年度から3件減少していますが、発達障がい者の新規相談が多くみられ、その要因として「発達障がい」についての周知啓蒙活動によるものと考えられます。

年齢別では50代（41件）、40代（27件）、60代（16件）、20代（13件）、30代（10件）、10代（3件）の順で、最高齢者は単身者の72歳男性（身体）でした。

相談者は難病や発達障がいの方が多く、障がいを持ちながら働く術を知りたいとの相談で、各々の状況に応じて当センターや「職業安定所」と連携し、就職至ったケース。また、「相談のみ・その他」の中には、A型・B型等の就労支援事業所に対する不満や不安の相談もみられ、思いを傾聴した上で障がい福祉課や年金課、他機関に繋いだケースもありました。

一般相談員からの引継に関しては、昨年よりも6件減少となっており、今後はより一層一般の相談員との情報交換等連携が不可欠だと思われまます。

#### 4. 職員研修の記録

- (1) 平成 28 年 7 月 2 日  
主催：全国就労移行支援連絡協議会  
就労移行支援タウンミーティング in Okinawa
  
- (2) 平成 28 年 7 月 15 日  
主催：うるま市障害者自立支援協議会  
第一回就労支援専門部会勉強会
  
- (3) 平成 27 年 8 月 9 日  
主催：沖縄県障害者職業センター  
リワーク支援における講座のご紹介
  
- (4) 平成 28 年 10 月 8 日  
主催：沖縄中小企業同友会  
第 11 回雇用・就労支援フォーラム
  
- (5) 平成 28 年 9 月 7 日  
発達障がいの理解と支援～基礎編～
  
- (6) 平成 28 年 9 月 30 日  
主催：沖縄障害者職業センターと発達障がい者支援センター  
発達障害者就労支援連続講座
  
- (7) 平成 28 年 10 月 21 日  
主催：沖縄障害者職業センターと発達障がい者支援センター 2 回目  
発達障害者就労支援連続講座
  
- (8) 平成 28 年 11 月 8 日  
主催：沖縄県障害福祉課沖縄県発達障害者センター  
発達障害者支援法改正と支援体制の充実に向けて

- (9) 平成 28 年 11 月 17 日  
主催：沖縄障害者施設連絡会  
「えいぶる」でよりスムーズな支援
- (10) 平成 28 年 12 月 13 日  
主催：沖縄職業センター  
就業支援実践研修精神障害コース
- (11) 平成 29 年 1 月 26 日  
主催：沖縄県中部福祉事務所地域福祉班  
「いまさら聞けない“連携のカタチ”」  
発表者：幸地睦子
- (12) 平成 29 年 1 月 31 日  
主催：沖縄県  
障害者雇用啓発セミナー
- (13) 平成 29 年 2 月 9 日  
主催：沖縄県発達障害者支援センター  
発達障害児（者）支援における学習会
- (14) 平成 29 年 2 月 17 日  
主催：沖縄労働局  
障害者雇用チャレンジセミナー
- (15) 平成 29 年 3 月 10 日～11 日  
主催：特定非営利活動法人ジョブコーチネットワーク  
障がいのある方の就労・雇用を考える